

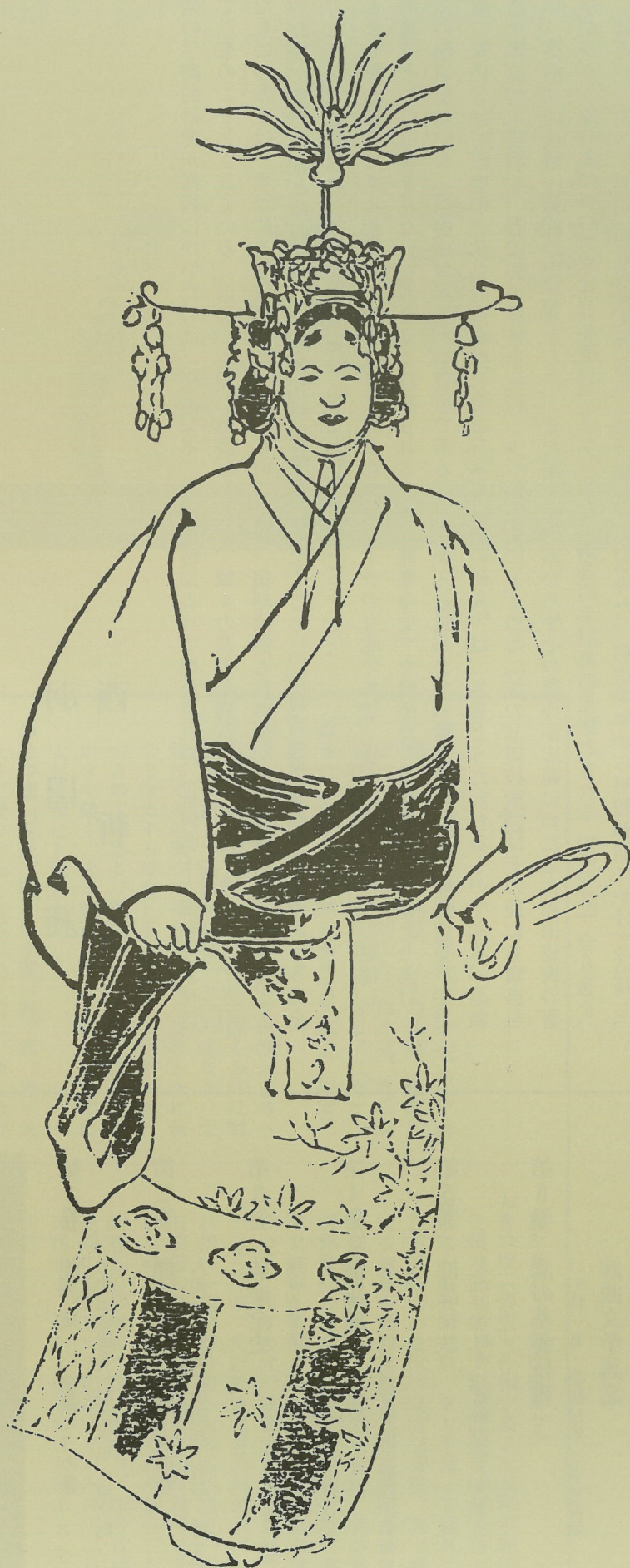
舞台芸術である能楽に関する名著を、さまざまな角度から選り復刻、
日本芸能史研究必携の文献集。

能謡研究叢書

全8巻

羽田 昶・西 哲生編・解説

株式会社クレス出版



羽田 昶
西哲生

能楽の学問的研究が端緒についたのは、明治42年、吉田東伍によって紹介された『世阿弥十六部集』が刊行されて以来のこととされている。以後、研究の進展とともに、数々の著書が刊行されてきた。そのなかで年月を経たものの多くは、すでに入手困難になって久しい。近年、復刻活動も行われ、有益な著書が手に入ることとなったが、まだ充分とはいえない。右の状況に鑑み、復刻することの意義ありと思われるものから8点を選び、これを8冊に収め、『能謡研究叢書』として刊行することとした。

もとより舞台芸術である能楽の研究は、さまざまなアプローチが可能である。まず、多くの資料を駆使し、当時の著作としては類を見ないものと高く評価される大著『能楽全史』を収めた。具体的な作品をとりあげ、謡曲文の価値を説いた『謡曲文学講話』も貴重である。古代から近世末までの舞台および劇場の変遷を、芸能の実態に関係づけて歴史的・体系的に考察した『日本劇場史の研究』は、名著とうたわれるものである。謡曲の技法を理論的に解明し、各流儀の特色を比較しつつ体系的にまとめた『謡の基礎技術』はその後にも類書を見ない。謡曲文の注解・研究の先覚者として、また国文学のみならずその著作が広範にわたる大和田建樹の著書のなかから、能91曲について具体的な解説をほどこした、鑑賞の手引書の先駆とされる『能の葉』全6巻を、2冊に収めた。同じく大和田著の能楽評論集『能謡秘訣』も収めた。明治末年から昭和初期にかけて活躍し、能楽界全体をリードした観世流24世宗家、観世左近(元滋)の『能楽随想』は、近代能楽界の一面を知るうえで必見の書である。能楽の演出上の用語をはじめ、作品名・道具・扮装その他、数多くの語を収載し解説した『能謡語彙』は、能楽用語辞典の役をはたし、いまだに利用価値が高い。

この叢書が、研究者はいまでもなく、能楽に関心をもつ人、大学研究室・図書館等において、お役に立つこと多大であろうと信じている。

(はたひさし・武蔵野大学教授
にしてつお・能楽評論家)

能謡研究叢書 全8巻構成

- 第1巻 能の葉 一の巻(三の巻)
大和田建樹著/明治36年/博文館
- 第2巻 能の葉 四の巻(六の巻)
大和田建樹著/明治36、37年/博文館
- 第3巻 能楽全史
横井春野著/大正6年/龍吟社
- 第4巻 能謡語彙
観世流改訂本刊行会編・発行/昭和6年
- 第5巻 能謡秘訣
大和田建樹著/昭和10年/玄洋社
- 第6巻 謡の基礎技術
三宅航一著/昭和14年/東文書院
謡曲文学講話
五十嵐力述/大正3年/文学普及会
- 第7巻 能楽随想
観世左近著/昭和14年/河出書房
- 第8巻 日本劇場史の研究
須田敦夫著/昭和32年/相模書房

能楽全史

横井春野著

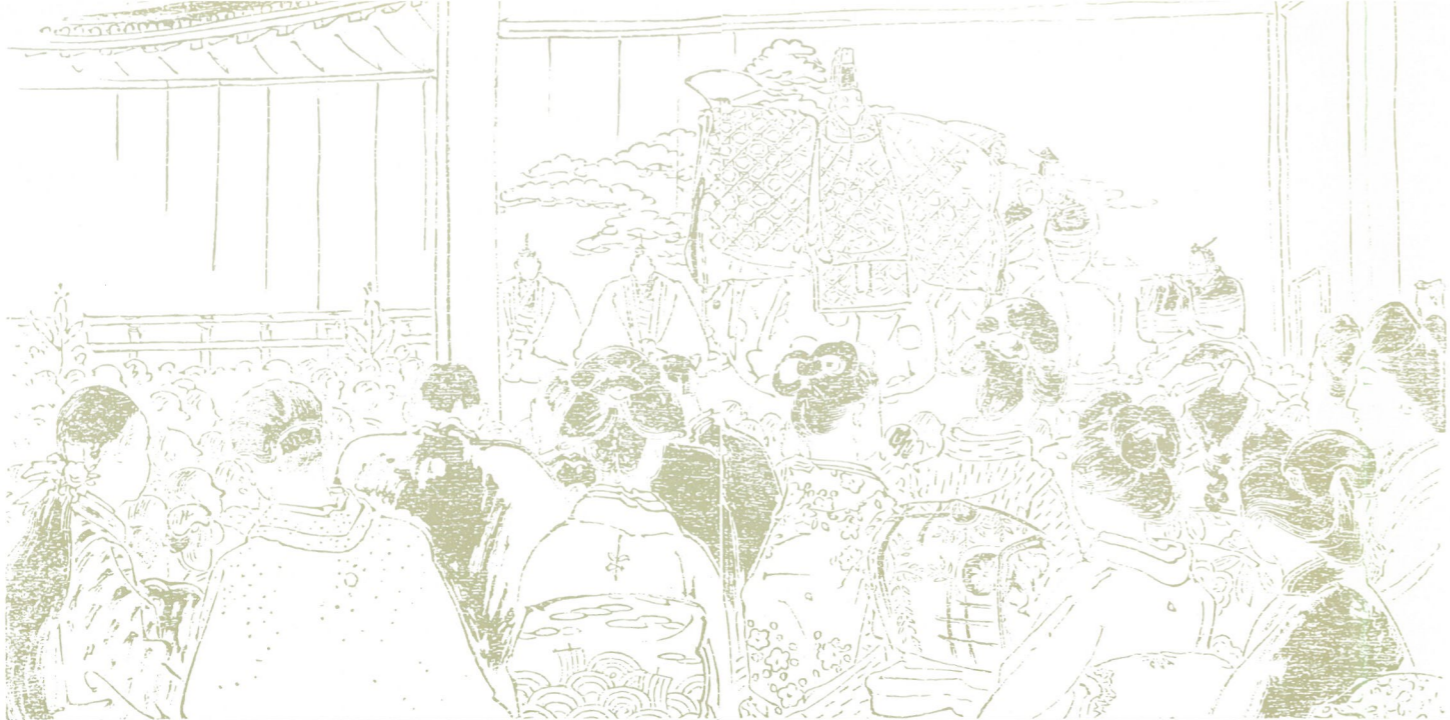
發端 新猿樂前本邦音曲の概況

總べて人類の生存する處、必ず音楽あり、歌舞あり、唯後世と異なるは、其單純なる
と複雑なるにあり、今能楽史を研究するに當り、新猿樂前の、本邦の音曲状態を知
得するの要あるに依り、以下その大略を書いつけん。

古記の傳ふる所によれば太古に、天照大神、御憤りの事ましくて天石窟アマノイハに籠らせ
給ひし時、天地とこ闇となりしかば、八百萬の神達之を嘆き、天石窟の前にて種々の
所業をなして、御心を慰め奉る。時に天鈿女命アマノハヤヒと云へる醜なる女神が、天香山の天
日蔭を鬢とし、天真折マコトマキを手纏タヌキに繋て、小竹葉ササハを手艸テグサに結び、手に鐸著タカたる矛ヤを持、櫛シ覆
て踏どゝろかし、歌舞し給ひしに、八百萬の神達一時にぞつと笑ひ給ひしかば、天照

發端 新猿樂前本邦音曲の概況

歌舞の始め



第3巻 能楽全史

第4巻 能謡語彙

お

おいまつ(老松)謡曲)脇能。シテ老松の神
靈、ツレ紅梅殿の神靈、ワキ梅津某、靈夢に
よつて筑紫安樂寺に詣でたる梅津某、老松及
び紅梅殿の神靈に逢ふことを作る。(六流)
おうへんのまひ(應變之舞)吉野靜の小書。
(觀)舞に替る所あり。

おき(オキ)(囃)大小太鼓又は大小鼓が或る一
段落を示す爲の手。その前には謡もあれば囃
子事もあり、後は概ね拍子不合の謡なり。太
鼓はオキに依つて休止し、大小鼓はオキに依
つて休止する場合とその後更にアシラヒを打
つとの二様あり。又太鼓にオキあれば大小鼓
にオキ無く、大小鼓にてオキを打つものには
太鼓は加はり居らず。

おきつぼ(置壺)狸々の小書(觀、剛、喜)大
なる酒壺の作物を舞臺正先に出し、酒を汲む

型などあり、舞は亂なり。

おきつぼ(置壺)作物)高さ三尺程の瓶に赤地
金襴の蓋を副ふ。狸々亂置壺の傳に用ふ。

おきな(翁)シテ翁、ツレ千歳(下懸にては狂
言方面箱持の兼役)狂言三番叟。天下泰平を
祈る一種の樂舞にして、古來斯道に於て最も
神聖なる秘曲として尊崇せられ、其の樂舞は
演能最初の儀式に用ふ。古名式三番。其の歌
章を神歌と特稱す。初日の式、二日の式、三
日の式、四日の式、法會之式(法會之舞とも)
十二月往來、父尉延命冠者の別あり、それぞ
れ謡の一節を作り更へたるものなり。昔時連
日演能の時必ず毎日翁を最初に演ずるを例と
し、初日より四日まで其の式を替へ、五日目
以後四日の式にて演じ續けり。現今は連日の
演能にも初日に翁を演ずるのみにて二日以後
に演ぜず、それも四日の式を用ふるを例と
す。

おきなあふぎ(翁扇)小道具)翁のみに使用す

能謡研究叢書 全8巻

羽田昶・西哲生 編・解説

- | | | |
|-----|-------------|-----------|
| 第1巻 | 能の葉 一の巻～三の巻 | 大和田建樹 |
| 第2巻 | 能の葉 四の巻～六の巻 | 大和田建樹 |
| 第3巻 | 能楽全史 | 横井 春野 |
| 第4巻 | 能謡語彙 | 観世流改訂本刊行会 |
| 第5巻 | 能謡秘訣 | 大和田建樹 |
| 第6巻 | 謡の基礎技術 | 三宅 航一 |
| | 謡曲文学講話 | 五十嵐 力 |
| 第7巻 | 能楽随想 | 観世 左近 |
| 第8巻 | 日本劇場史の研究 | 須田 敦夫 |

A5判/上製函入/クロス装

揃定価95,000円(税別) 平成16年1月末日刊行

ISBN4-87733-199-9(セット) C3374

●クレス出版好評既刊書●

御伽草子研究叢書

全9巻

藤井 隆 編・解説

- | | | |
|-----|-----------|--------------|
| 第1巻 | 古注釈と文学史書集 | |
| 第2巻 | 研究書集成Ⅰ | 室町時代小説論 |
| 第3巻 | 研究書集成Ⅱ | 島津久基集 |
| 第4巻 | 研究書集成Ⅲ | 島津久基・後藤丹治集 |
| 第5巻 | 研究書集成Ⅳ | 講座、雑誌特輯集 |
| 第6巻 | 解題書集成Ⅰ | 近古小説解題 |
| 第7巻 | 解題書集成Ⅱ | 未刊中世小説解題 |
| 第8巻 | 解題書集成Ⅲ | 室町時代物語集第一～第四 |
| 第9巻 | 解題書集成Ⅳ | 室町時代物語集第五ほか |
- 揃定価80,000円(税別) ISBN4-87733-197-2(セット)

西行研究資料集成

全10巻

西澤 美仁 監修・解説

- | | | |
|------|-----------------|-------|
| 第1巻 | 増補 山家集抄 | 釈 固浄 |
| 第2巻 | 山家集詳解 | 梅澤 和軒 |
| 第3巻 | 西行法師伝 | 梅澤 和軒 |
| 第4巻 | 異本山家集 附録西行論 | 藤岡作太郎 |
| 第5巻 | 類聚 西行上人歌集新釈 | 尾崎 久弥 |
| 第6巻 | 西行法師名歌評釈 | 尾山篤二郎 |
| 第7巻 | 西行法師 | 窪田 空穂 |
| 第8巻 | 西行法師評伝 | 尾山篤二郎 |
| 第9巻 | 西行・西行研究録・西行の伝と歌 | 川田 順 |
| 第10巻 | 西 行 | 風巻景次郎 |
- 揃定価94,000円(税別) ISBN4-87733-159-X(セット)



株式
会社

クレス出版

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
☎03-3808-1821 ㊚03-3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>